

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

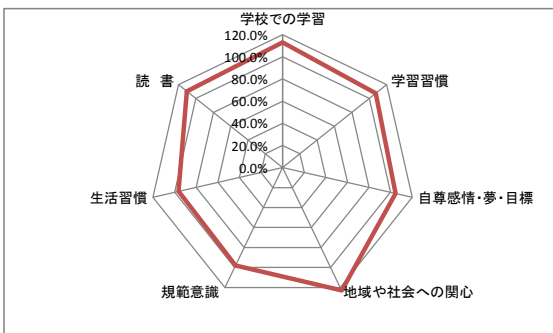
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っており、「話すこと・聞くこと」は高い数値を示していたが、「書くこと・読むこと」に関しては低い数値だった。特に、記述式の問題を苦手としている傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・相手に分かりやすく伝わる表現について理解する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題の正答率が低かった。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っており、「関数」の分野は正答率は高かったが、「数と式」「資料の活用」の正答率が低かった。国語と同様、記述式の問題を苦手としている傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・座標の差を、事象に即して解釈することや、反比例の意味を理解している問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・資料を整理した表から最頻値を読みとることができる問題の正答率が大幅に低かった。	
英語	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っており、「聞くこと」の領域の問題の正答率が低く、「外国語表現の能力」の問題の正答率が高かった。また、記述式の問題の正答率は全国平均と同程度だが、選択式の問題の正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・情報を正確に聞き取ることや、適切に接続詞を用いることができる問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」などの自尊感情や夢や目標を問う回答で、全国平均を上回った。更に「家の人に学校での出来事を話す」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」も全国平均を上回っていることから、家族や先生から認められている安心感や、周囲との関係の良さが伺える。その点から、自尊感情が高まっており、夢や目標に向かって前向きに生活していると考えられる。 ・「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」が全国平均を大幅に上回っており、学校での学習活動の成果が、生徒自身の成長につながっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・全学級全教科で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の徹底は、今後も継続して行う。 ・生徒の間での話し合う活動を通して、思考力・判断力・表現力を育む授業展開はもちろんのこと、考えの根拠を明らかにして、記述・説明する力の育成も図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べる割合は、安定した高い水準を維持しているが、就寝時間と起床時間の質問では全国平均に比べ、生活リズムが安定していない低い値だった。家庭学習の「時間」や「計画を立てて学習する」に関しては全国平均を上回っているため、生活習慣の向上で更に質の高い学習につなげるためにも、道徳の授業の充実や、学校通信や保護者懇談会を通して、生徒の生活をよりよいものにしていきたい。
